

令和5年12月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和5年12月1日（金） 11時00分～11時45分
場所 市役所2階 第3委員会室
出席 市政記者クラブ9社 11名

会見内容

1. 話題提供（3項目）

はじめに 台湾及びベトナム訪問について

- はじめに、台湾及びベトナムの訪問について報告いたします。
- 先月11月12日（日曜日）から18日（土曜日）の日程で、台湾及びベトナムを訪問してまいりました。
- 台湾につきましては、これまでも重点的に取組を進めてきましたけれども、さらなる誘客を図ることを目的に、11月13日（月曜日）に台湾政府関係機関である「交通部観光署」「交通部民用航空局」並びに現地航空会社を訪問し、国際線の就航に向けた要請を行ってまいりました。
- 台湾政府関係機関、各航空会社からは、釧路空港へのチャーター便の就航について前向きな意向を確認したところであり、今後、ツアー造成などの具体的な内容について協議を進めていく予定であります。
- 翌14日（火曜日）には、北陽高校の台湾見学旅行における交流相手校であります「私立景文高級中学」を訪問し、学校交流事業を行いました。私はその時間航空会社を訪問して行けませんでした。大勢の生徒、先生から熱烈な歓迎を受け、大変すばらしかったという話を聞いております。
- 「景文高級中学」の江校長先生から今後も交流を積み上げていきたいという話をいただき、この訪問を機会に、両校の間の友好関係を深めてまいりたいと考えております。
- ベトナム訪問につきましては、「北海道フェスティバル in ハロン」が開催され、北海道の各地域からハロンを伺い、交流を図りました。このイベントには16日（木曜日）から17日（金曜日）の日程で行ってまいりました。
- この会場内では、観光ブースで釧路の食や観光をはじめとする地域のPRを実施してまいりました。
- フェスティバルの前に、ハノイにある石炭会社「ビナコミン」を訪問し、あわせて、東京パラリンピックのパワーリフティングベトナム代表チームが釧路で合宿を行っていただきましたことから、「ベトナム文化スポーツ観光省スポーツ総局」にお礼と今後の展開について話をいたしました。
- 今回は日越外交関係樹立50周年ということで、北海道がこのフェスティバルを行いました。ちょうど10年前の40周年では、石炭の交流として大使を釧路にお迎えして、40周年のレセプションを開きました。この展開が全道各地につながって、この50年をハロンで、大変多くの方が集まりフェスティバルができたことは大変うれしいことだと思っております。

1 釧路市各種証明書の郵送交付申請のオンライン化について

- 続いて、話題のひとつ目として、釧路市のDXの取組のオンライン申請についてです。
- これまでもオンライン申請については、国が運営する「ぴったりサービス」の導入やプログラムの知識がなくても開発できる「LoGoフォーム」などを利用して行っておりましたが、本日、12月1日（金曜日）から、マイナンバーカードとスマートフォンがあれば

ば、「住民票」等の一部の証明書の郵送交付について、オンライン申請ができるようになりました。

- この申請は、マイナンバーカードの機能により本人確認を行い、手数料や郵送料の支払いはクレジットカードまたはPayPayによる電子決済となっています。
- これまでの証明書の郵送交付の申請は、申請書と本人確認書類の写し、郵便小為替と返信用の切手などを郵送する必要がありましたが、オンラインで申請及び支払いを可能にすることで、これらの作業が無くなり、受け取りまでの時間短縮を図るものです。発送までの日数の目安としましては、申請から3営業日目に発送することとしております。
- 今回オンライン申請を開始する手続きについては「住民票」や「戸籍謄（抄）本」、「所得（課税）証明書」など、今も郵送や窓口での申請が大変多いものとしております。また、コンビニ交付サービスでは取得できない「住民票除票の写し」や「身分証明書」「独身証明書」についても、オンライン申請を行うことで取得することができます。
- マイナンバーカードと暗証番号及びマイナンバーカードを読み取ることができるスマートフォンがあれば、公式LINEの基本メニューや釧路市ホームページから申請フォームを開いて、画面の案内に従って進めることで簡単に申請することができます。
- 取得できる証明書の種類や申請できる方については、広報くしろ12月号に掲載し、市民の皆様にお知らせしております。
- 「釧路市デジタル・トランスフォーメーション推進方針」は、「スマートフォンの中に市役所がある」を基本理念とし、デジタル化、オンライン化を進めているところであり、市民の利便性向上を目指しています。

2 釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz 5周年記念シンポジウムについて

- 2点目が、「釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz 5周年の記念シンポジウムについて」です。
- 2018年に開設した「釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz」がちょうど今年8月で5周年を迎えました。
- これまで1,000を超える中小企業、個人事業主、地域の会社の皆さま方からご利用いただき、延べ相談件数は9月末時点で9,318件と多くのご相談をいただいています。k-Bizでの相談から様々な事業や商品、サービスが生まれたほか、雇用創出にも繋がっており、地域経済に新たな変化をもたらす役割を担ってきたものと考えています。
- この度、開設5周年を記念したシンポジウムは、12月22日（金曜日）午後1時30分から、釧路市生涯学習センター（まなぼっと幣舞）大ホールで開催します。
- 当日は、澄川センター長から5年間の実績を報告いただく他、須藤 治 中小企業庁長官をお招きした基調講演や、Bizモデル創出者である小出 宗昭氏などを交えたパネルディスカッションを行う予定です。
- 入場は無料、事前申込制となっていますので、ホームページや配布していますチラシに記載のQRコード等からお申し込みください。
- これまでk-Bizをご利用いただいた事業者の皆様はもちろん、まだ利用したことがない事業者様、これから創業をお考えの方など、多くの方々にご参加いただき、地域に力を与えていく取組を一体となって進めていければと思います。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・台湾からのチャーター便について前向きな返事をいただき、今後具体的に協議を進めていくとのことですが、釧路市として台湾からのチャーター便は初めてになりますか。

(市長)

- ・以前にもあります。台湾や韓国の国際線の受入は行ってきました。台湾については、定期便も2年弱ですがありました。しばらくはありませんでしたが、春節を迎える中で展開していきたいという前向きな状況でした。

(質問)

- ・時期的な見通しはありますか。

(市長)

- ・ひとつは春節です。1番人が動くときであることと、今までのコロナ禍によりこれから動きたいという思いがあると思います。釧路には外国人旅行客の中で台湾の方が一番多く来ていただいていたと思います。そのような中で、進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・来月の末にはチャーター便が来るということですか。

(市長)

- ・細かいスケジュールはまだ決まっていますが、近々日程等は発表できると考えています。

(質問)

- ・釧路市としては、どのような歓迎をするなど具体的にありますか。

(市長)

- ・まだ細かい中身は決まっています。台湾の方々は今までも来ていただき、雪や寒さ、豊かな自然、食などに評価をいただいていますので、久しぶりの受入れになりますけれども、良い環境を作っていきたいと思っています。

(質問)

- ・郵送交付申請のオンライン化について、DXをかなり進めています。今こういったものをオンライン化していくなど、具体的に進めているものはありますか。

(デジタル行政推進主幹)

- ・今回、公的個人認証と電子決済の機能を搭載しましたので、これらがネックとなって電子申請が進まなかったものについて検討を開始していきます。まだ具体的にこの手続きということではできませんが、順次拡大していきたいと考えています。

(質問)

- ・昨日、アジアリーグがひがし北海道クレインズの脱退を発表しました。釧路のチームが約半世紀ぶりにトップリーグから姿を消したことについて、市長としてこのような事態をどのように受け止めていますか。

(市長)

- ・クレインズの脱退については、残念な思いです。しかしながら、アイスホッケー連盟を含め、釧路からアジアリーグに参加するプロチームを確保する動きが同時にありますので、「氷都くしろ」としてしっかり進めていきたいと考えています。

(質問)

- ・釧路アイスホッケー連盟がワイルズに推薦書を出すことを決めました。今後釧路市としての対応も考えられますが、どのようなことを考えていますか。

(市長)

- ・アイスホッケー連盟の皆様とこれまでも協議していきながら、これからアジアリーグにチ

ームを出していこうという基本ベースがあります。その中でワイルズを推薦するという形になりましたので、ここについては私どもも一緒に支援していきたいという考えです。

(質問)

- ・釧路市の支援とは、包括連携協定の締結まで考えていますか。

(市長)

- ・これまでも、協定を結んでからリンクの使用など様々な支援をクレインズに対し行ってきました。

(質問)

- ・方向性としてはワイルズと協定を結ぶということですか。

(市長)

- ・アジアリーグの参加を目標にしています。今回連盟から北海道を通じてワイルズを推薦されましたので、アジアリーグに認証されるようしっかりと一緒に進めてまいります。協定はそれからになりますが、様々なバックアップをこれまでと同様に進めていければと思っています。

(質問)

- ・アジアリーグの参加が決まってから協定は考えるということですか。

(市長)

- ・そういう形になります。もちろん加盟に向けて連盟と連携して行っており、認証されるものと思っておりますので、それからの具体的な動きは認証されてから行っていくものです。今は選んでいただけるよう進めていければという思いです。

(質問)

- ・アジアリーグに参戦しトップチームを残すことが釧路にとって大事なことと思いますが、まず参戦に向けての支援で考えていることはありますか。

(市長)

- ・ここについては相談しながら進めています。今の段階では全体の条件として収支の問題などがある中で、連盟が推薦を決めたということですので、アジアリーグの判断を踏まえながら、どのようなサポートできるかということです。ですから、アジアリーグに入っているから連携協定をとというのが先ほどの答弁ですが、リーグに入るまでは何もしないということではありません。今は連盟と連携して進めていくという立ち位置ですので、協議の中で何ができるのかはまだわかりませんが、情報を取りながら進めていきます。まずは加盟に向けての取組ということになります。

(質問)

- ・市としては、まだ何をするかは決まっていないが、連盟と歩調を合わせて進めていくということですか。

(市長)

- ・連携協定があれば加盟につながるなどあるかもしれませんが。私たちが何かをすることで加盟が可能になるのであれば、そこはバックアップすることになりますし、これからの協議の状況を踏まえながらということになると思っています。

(質問)

- ・改めて今回アイスホッケーのトップリーグからチームの存在がなくなりましたが、市にとってどういう存在なのか市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・アイスホッケーに限らず、どのようなスポーツも素晴らしいものだと思います。その中でアイスホッケーに関して言いますと、皆様が小さい頃から親しんでおり、日本製紙クレインズ時代からこの街にトップチームがあったという一つ一つの思いがあります。社会人リーグも8部まであり、みんながアイスホッケーを盛り上げていこうと思っています。

その中でアジアリーグの加盟チームの存在は、その象徴です。そのために実現、具現化することは必要とっておりますので、連盟やファンの方々と取り組んでいきたいと思っております。

(質問)

- ・今年を振り返りますと釧路市で太陽光発電のガイドラインを設けられました。その後周辺の市街化調整区域で設置の動きがいくつか出ています。今後条例化についての考えはありますか。

(市長)

- ・ガイドライン策定時などにおいて、ガイドラインの手順を進めていく中で条例制定と実務的な効果は変わらないものであることをご説明してきました。全国市長会における要望においても、太陽光パネルの「景観」や「後処理（事業終了後や災害時の廃棄及び撤去）」などといった太陽光パネルの課題について要望をしています。まずはガイドラインで、地方自治体ができることはクリアしていると思っていますので、条例化については、国の動きなどがあった時に考えていくものと考えています。国へ要望している内容に何か動きがあればと思っていますところです。

(質問)

- ・国の動きとはどのような内容ですか。

(市長)

- ・北海道市長会で要望していることは、「景観」と「後処理」などについて、しっかりとした体制を取っていただきたいということになります。

(質問)

- ・そのことについて国からガイドラインや基準が示されればということですか。

(市長)

- ・太陽光パネルは建築物ではないため、個人の土地に設置できます。その中で設置を制限することになるのは、「釧路市文化財保護条例」の文化財としての扱いの部分で、調査をしていながら対策を取ることになります。

現在、国のルールでは対策を取らなくても太陽光パネルを設置することができます。対策を取らない場合は、FITなどのインセンティブが当たらないというルールです。国のルールの中で、「景観」や「後処理」などについての対策を盛り込んでいただきたいと思っています。

釧路市では「釧路市文化財保護条例」でキタサンショウウオの産卵地を調査することとしています。まずはそこを含めたガイドラインを策定し、私どもの自然保護、野生動植物の保護の姿勢を見せています。

(質問)

- ・国の動きを待ってから動くということですか。

(市長)

- ・手順としてはそうなると思っています。条例化が必要だとの声が出てくるということもありますが、基本的にガイドラインで効果は発揮できていると思っています。もう一つ次の段階の時には何らかの国の動きがあることが望ましいと思っています。

(質問)

- ・アジアリーグへの申請について、申請期限は12月中ですが、この1か月の動きはどのようになるのか教えてください。

(スポーツ課長)

- ・現在はワイルズが申請書類をそろえているところであり、その一つに推薦書があったとい

うことです。市にはワイルズからホームリンクについて、釧路アイスアリーナを使わせてほしいという依頼があり、了承しましたので、申請書類がそろったところです。

(質問)

- ・申請書類がそろい提出する段階ということで、いつ提出する予定ですか。

(スポーツ課長)

- ・いつ提出するかは聞いておりません。

(質問)

- ・タンチョウの鳥インフルエンザについて、昨シーズン初めて確認され、動物園で防鳥ネットなどの対応を取られたと思います。今シーズンは周辺地域で確認されています。釧路市としての発表はまだありませんが、これから何か対応を取るという考えはありますか。

(市長)

- ・タンチョウについては、環境省の保護増殖検討会で対策が検討されております。本日の午後に検討会のワーキンググループが環境省の呼びかけによって開催されることになっており、その中で鳥インフルエンザの検討がされます。釧路市としましては、所管する環境保全課、阿寒市民課、音別市民課、動物園がワーキンググループに参加します。この議論を受け、どのような対応になるかが決まってくると思っています。

釧路市の対策は、10月25日に市内で野生のノスリから高病原性鳥インフルエンザが確認されてから行っています。内容は動物園において、来園者や業者、職員が園内に入るときの靴の裏の消毒、鳥の室内収容や室内収容ができない場合は鳥との距離を取るためのロープやバーを設置、野生から保護された傷病鳥獣の受け入れ停止を行っています。

(質問)

- ・昨年行った防鳥ネットの設置はまだ行っていないのですか。

(ふれあい主幹)

- ・防鳥ネットは設置したままですので継続して行っています。

(質問)

- ・市の職員がワーキンググループに参加し、詳細な対応は改めて決めていくのですか。

(市長)

- ・その通りです。

(質問)

- ・北海道が進めている観光振興税について、市としては入湯税のかさ上げをどうするかなど検討を進めていると思いますが、観光振興税に対して市長の認識とスケジュールをお聞かせください。

(市長)

- ・観光振興税については、北海道から考え方を示されたところです。その中では、北海道が進めていき、そこに市町村がどうするのが主軸でありました。私どもは当初、全体をまとめた中で配分するという話をしてきましたが、流れは違うという形になりました。そこでどのようにしていくのかは協議していく必要があります。そこで出てくるのがまさしく入湯税との関係が出てきます。入湯税はあくまで限定的で目的を明確にしているものですので、この10年間の評価も踏まえて、継続していこうと考えていたところでしたが、観光振興税との関係も含めて、そんなに時間をかけていく話にはならないと思いますが、相談していく必要があると思っています。

(質問)

- ・入湯税のかさ上げだと一部の地域に対してですので、市全体となるとまた性格が変わってくると思います。

(市長)

- ・しかしながら、その影響はあるということは当然だと思います。入湯税は既存のものですからどういったことに使用しているのかを示しながら継続していくということはありません。あわせて、全道的な動きが出てきますので、情報を取りながら、また相談しながら進めていくことが必要だと思っています。ただそれほど時間をかけずに、周知をベースにしながら進めます。

(質問)

- ・現在表明している市を見ても、段階的なものであったり、利用者サイドから見るとわかりづらいものになっています。

(市長)

- ・場所によって違うものはあまりよくないと思いますが、そのような形になっています。協議については示しながら進めていくものと思っていますので、よろしくお願いします。